

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 1 7	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Cognitive function in older diabetic subjects with a history of alcohol abuse. アルコール依存症の既往がある高齢者糖尿病患者の認知機能	
執筆者	
Hudetz JA, Warltier DC.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychol Rep. 2007 Dec;101(3 Pt 2):1125-32.	
キーワード	
糖尿病、認知機能、アルコール依存症	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>とくに高齢者においては糖尿病あるいはアルコール依存症は認知機能障害を来し易い。アルコール依存症病歴が糖尿病患者において認知機能障害のリスクになるか否かは検討されていない。アルコール依存症病歴ある 2 型糖尿病患者における認知機能は糖尿病あるいはアルコール依存症単独の症例に比べてより障害されていると想定される。</p> <p>方法：</p> <p>55 歳男性を以下の様に区分した：アルコール依存症＋糖尿病患者 15 人；アルコール依存症の非糖尿病患者 15 人；非アルコール依存症の糖尿病患者 15 人；いずれの疾患もない 15 人。これらの患者は全て年齢と教育歴が同様になるようマッチさせた。研究参加者の言語学的記憶力、視覚空間的記憶力、および実行機能力について神経認知試験を用いて評価した。</p> <p>結果：</p> <p>一定時間後の視覚的回想力、直後の物語回想力、一定時間後の物語回想力に関して糖尿病とアルコール依存症との間に有意な相互関連性があった。すなわち糖尿病とアルコール依存症は互いに影響して認知機能試験成績を低下させた。</p> <p>結論：</p> <p>アルコール依存症病歴がある高齢糖尿病患者は認知機能障害のリスクが高い。</p>	